



いわさ まさき
岩佐 正貴
陸士長

やまだ さとこ
山田 聡子
3等陸曹

**令和3年度全日本ライフル射撃競技選手権大会
(10mエアピストル・エアライフル)**

令和4年4月22～24日に宮城県石巻市宮城県NEXライフル射撃場において令和3年度全日本ライフル射撃競技選手権大会(10mエアピストル・エアライフル)が行われた。今大会は、3月に開催を予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により新年度4月に行われた。自衛隊体育学校からは、第2教育課射撃班山下敏和3等陸佐以下13名が出場し、10mエアピストル競技において男子種目で岩佐正貴陸士長が初優勝、女子種目で山田聡子3等陸曹が初優勝し自衛隊体育学校のアベック優勝を飾った。

本戦5位からの
逆転優勝
岩佐

大会1日目、男子10mエアピストル競技本戦(立射・片手60発撃ち)が行われ、岩佐士長は、序盤から思い通りの射撃ができず、全体の5位(567点)で終わり、本選上位8名で行われるファイナルにはなんとか駒を進めることができた。その中、同門の園田吉伸2等陸曹が本選1位で通過(580点)し、ファイナル進出8名中の4名が体育学校所属選手でチームとしての強さを見せた。ファイナルは、本戦での点数はすべてリセットとなり、250秒で5発を2回撃ち、次に50秒で1発ずつ撃ち、計12発目を撃ち終わったとき8位が脱落する。以降2発ずつ撃ち勝ち抜きで順位を決定していく方式だ。ファイナルが始まる前に、岩佐士長はしっかり気持ちを切り替えることができ、序盤から高得点を獲得。試合中盤から、岩佐士長と本選1位通過の園田2曹の二人の戦いとなった。最終的に岩佐士長が接戦を制し、園田2曹に1.6点の差を付け239.1点で初優勝を飾った。岩佐士長は「この大会で優勝した時は信じられなかった。ファイナルに残り優勝できたことは奇跡だと思う。次の大会でも良い成績が出せるよう頑張りたい。」と語った。岩佐士長は今後、2022ジュニアワールドカップズール大会に出場するなど、海外での試合経験を積み世界で活躍する選手を目指す。

10mエアピストル種目
初優勝
山田

同じく大会1日目、女子10mエアピストル競技本選に2020東京五輪代表の山田3曹が出場した。山田3曹は、終始安定して的確な射抜き、2004アテネ・2012ロンドン五輪代表の小西ゆかり選手(飛鳥交通)に続く2点差の2位(571点)でファイナルに駒を進めた。迎えたファイナルは、序盤に山田3曹が高得点を出し、他選手に一步リードする展開となった。試合は、そのまま山田3曹が独走し終了。2位の小西選手に3.2点の大差を付け10mエアピストル種目での初優勝を手にした。

山田3曹は「やっと優勝カップを手にし、体育学校に持って帰ってくることができた。最後まで諦めず自分と向き合い続けた結果、勝つことができた。5月中旬の選考会では、基準点をクリアしワールドカップ派遣のメンバーになれるように頑張りたい。これからは応援よろしくお願いします。」と抱負を語った。

総合成績(入賞者)

10mエアピストル

- 男子 **優勝** 陸士長 岩佐 正貴(徳島県)
準優勝 2等陸曹 園田 吉伸(群馬県)
 第4位 3等陸曹 金坂 春杜(千葉県)
 第6位 3等陸曹 武内 響(北海道)

- 女子 **優勝** 3等陸曹 山田 聡子(滋賀県)

10mエアライフル

- 男子 **準優勝** 2等陸曹 花川 直樹(兵庫県)
 第4位 2等陸曹 島田 敦(埼玉県)
 第6位 3等陸佐 山下 敏和(徳島県)
 第7位 1等陸尉 松本 崇志(長崎県)

- 女子 **第3位** 2等陸曹 鈴木 志佳(東京都)
第4位 2等陸尉 小笠 綾乃(岐阜県)

